

平成28年度 御殿場市議会経済環境委員会（後期）行政視察報告書

1 視察日程 平成28年11月18日（金）～11月19日（土）

2 視察先及び視察内容

(1) 静岡県 榛原郡 川根本町（11月18日～19日）

県内における農家民宿による地域振興について

3. 参加者

委員長 平松 忠司

副委員長 本多 丞次

委員 黒澤 佳壽子 杉山 護 高橋 利典

勝間田 博文 菅沼 芳徳

委員外議員 _____

当局職員 井上 仁士（産業部農政課課長）

事務局 滝口 拓樹（議会事務局主事）

4. 視察先対応者

部署・役職名等 太田 麻美子（静岡県東部農林事務所地域振興課主査）

部署・役職名等 浜谷 友子（NPO法人 かわねライフ 理事事務局長）

部署・役職名等 横澤 幹三・くみこ（農家民宿 あしたばの宿 経営）

渡辺 妙子（農家民宿 天空の宿 経営）

5. 視察内容

『県内における農家民宿による地域振興について』

≪視察研修の目的≫

＜目的を記載する。＞

当市でも事業化されているグリーンツーリズムや地域ブランド開発の一施策として研究が始まっている農家民宿について県内先進地を体験視察し、当市の施策に生かす。

≪視察先の概要≫

＜視察先市町等の概要を記載する。＞

町勢：

(本市との比較)

項目	単位	川根本町	御殿場市	倍率	
面積	km ²	496.88	194.90	2.55	
人口	人	7,742	89,231	0.09	H27.1.1.住基
人口密度	人/km ²	15.6	457.83	0.03	
一般会計歳出	億円	68.5	351.1	0.20	平成26年度
決算額	万円/人	88.5	39.3	2.25	
財政力指数		0.37	0.98		平成26年度

≪視察内容≫

平成28年11月18日(金) 10:20～12:00

於：川根本町 下泉高齢者コミュニティーセンター

＜内容を記載する。＞

1. 農家民宿の概要説明 10:20～10:55

講師：静岡県東部農林事務所地域振興課 太田 麻美子 主査



① 国の「観光先進国」を目指す施策を受け、静岡県では「地域ぐるみで取り組む!『農林漁家民宿』開業支援」を進めている。

今年度からは、富士山を借景にした素晴らしい農村風景を有する御殿場市において、地域ぐるみで農林漁家民宿の開業を支援することにより、都市農村人口の増加を図っている。

② 農家、旅館業者、観光業者、飲食業者、市行政、議会などが協力し合い、農村の景観づくりや農業体験、農家民宿への宿泊を通して、地域の魅力を発信できるよう取り組んでおり、勉強会などが続けられている。

③ (仮)御殿場市農家民宿推進協議会を年度内に立ち上げ、29年度の農山漁村振興交付金の活用に向け検討を進める。また、開業希望者への個別支援を進める。

④ その他、農山漁村振興交付金の中身や国、県の規制緩和の動向についてのレクチャーを受けた。

<内容を記載する。>

2. かわねグリーンツーリズムと農家民宿開業支援の取組 11:00 ~ 12:10

講師：NPO法人 かわね来風 浜谷 友子 代表

① NPO法人 かわね来風 設立経緯と事業内容

<理念> まちづくり活動・・・この町に住み続けるために

今、私たちができること

≪4世代が幸せに暮らせる街を目指して≫



- H20. 10. 28 設立
- H21. 4 ~ 三ツ星オートキャンプ場運営
- H22. 4 ~ 総合型地域スポーツクラブ設立
- H23. 4 ~ 高齢者宅配サービス設立
- H23. 8 ~ **かわねグリーンツーリズム**
(農業体験・農家民宿)
- H25. 8 ~ 川根清涼野菜出荷協同組合設立
(川根農産物直送便)
- H25. 18 ~ **食と遊びの「三ツ星村」運営**
- H28. 4 ~ 放課後児童クラブ事業
- H28. 7 ~ 生活支援コーディネーター事業

・三ツ星オートキャンプ場の指定管理が発端

当時、年間500人程の町営キャンプ場を今では、12,000人までにした。指定管理だが町からの運営費はもらわず、利用料収益でその他のまちづくり事業を展開している。

基本的に町の資金は当てにせず、国・県の補助等を使えるなら使う。高校生など、次の世代の職業を作るつもりでやっている。

② グリーンツーリズムと農家民宿開業支援の取組

・グリーンツーリズムは、キャンプ場のお客様の

「どこか遊べるところはないですか？」から始まった

モデル農園で農業体験 ⇒ 地域農家の畑で農業体験 ⇒

農家オリジナルの農業体験 とステップアップ。

滞在時間を長くするため「農家民宿」に取り組み、

「できるひとからはじめよう」を合言葉に

「気軽に農家に泊まれるまち」を目指した。

今では、県観光協会の紹介を受けて台湾の中学生の修学旅行を受け入れている。1回に30~40人を分宿させ、ホームステイも入れている。

(次の農家民宿開発のため。)

<課題> **農業体験・農家民宿は、農家の収入と直結はしない。**

真剣にやればそれなりにはなるが、農業がおろそかになる。

「誰がやるべきか？」を考えておかなければならない。

H28. 10 移住者の古民家カフェの若夫婦が興味を示している。

以上、レクチャーの後に**食と遊びの「三ツ星村」**(農の駅のような施設、当NPOの運営)で地元の蕎麦ととろろ飯で昼食とした。

平成28年11月18日（金）13：30～19日（土）10：00

於：川根本町 農家民宿「あしたばの宿」

<内容を記載する。>

3. 体験宿泊

農家民宿「あしたばの宿」横澤 幹三・くみこ夫妻

農家民宿「天空の宿」 渡辺 妙子 氏（当日の手伝い）

- ① プログラム体験 こんにゃく作り 夕食に刺身で供すほか、持ち帰り。
クチナシ染め ハンカチを染め持ち帰り。
- ② 食事準備 ヤマメの塩焼きや里芋焼き、配膳や片付けの手伝い。
- ③ 入 浴 1名ずつ順次入浴
- ④ その他 周りの散策や星空観察



- 夫妻との歓談で「農家民宿」について聞き取りしたこと
 - ・息子たちと一緒に住むつもりで改築したが、勤めの都合で戻れなくなった。娘も遠くに嫁いだ。休みには遊びに来る。
 - ・やってみて楽しいと思う。
 - ・毎日は、受けない。ぼちぼち休みながらやっている。
 - ・予約は、直接のこともあるがNPO経由が多い。
⇒ 連絡なしにドタキャンされたことがあり、できるだけ直接は受けない。
 - ・困ったことや要望があれば、NPOに連絡する。
 - ・食事については、お客さんに出したものと同じものを自分たちも食べるのでそれほど苦にならない。仕出しをとるものもある。（刺身など）
お客さんの満足具合がわからないので、つい、やり過ぎてしまう。
（当日もテーブル一杯であった。）
 - ・アルコールなど飲み物は、お客さんの好みがいろいろなので持ち込んでもらっている。
 - ・兼業の人が多い。
 - ・客は東からの方が多い。（東京方面）
 - ・台湾は熱心で、先ず校長会が下調べに来て、その後、子どもたちを送ってきている。町に中国から嫁に来ている人がいて手伝いをしてくれる。
台湾の子供たちは、純朴でいい。



《 考 察 》

＜考察（御殿場市への提言も含む）を記載する。＞

- ・国・県の規制緩和により農家民宿が開業しやすくなっている。
- ・NPO法人 かわね来風の浜谷氏のような人材が必要である。
- ・連絡協議会の設立が急がれる。
それにより、国の交付金を受けることができる。
また、様々な方の連携により開業者を支えながら、まちの活性化を図ることができるようになる。
- ・農家民宿をやっている方々から、「楽しい」という言葉を聞いたことは、何よりの収穫であった。生きがいづくり、はりあいづくりにもなる。
- ・本市の持つ様々な資源を活用すれば、実現できる可能性は充分ある。
- ・経済環境委員会としても、更に積極的に関わり、実現に向け活動したい。
それとともに市行政にも必要な提言をしていきたい。



以下、視察先ごとに記載する。